

平成30年4月13日（金）日刊木材新聞に掲載されました。

太郎馬工場に6軸多目的加工機導入

スカイ

大中小判CLTや特殊加工に対応

スカイ（静岡県静岡市、高橋幸嗣社長）は、CLT・大断面材・特殊材に対応する新たな加工ラインを豊岡太郎馬（たろま）工場に整備する。投資額は約1億5000万円、CLT対応加工機としては2基目。手間の掛かる特殊加工への対応力を強化し、生産効率を上げて低コスト化を図るとともに、工場スタッフの負担軽減につなげていく。新ラインは6月には設置を終えて試運転に入る予定だ。

同社は天竜川沿いの豊岡・船明の2エリアで6工場を運営し、一般住宅から難易度の高い大型木造建築物まで広範な領域のプレカット需要に対応。昨年度は約13万5000坪を加工している。新ラインは、豊岡太郎馬工場の北側棟（約800平方メートル）内に整備される。トリアンは3000×1200で、材長9メートルまで対応する。スカイでは2014年末に全自動6軸



加工機（ユニチーム製）を導入してCLTの加工を進めてきたが、同機は大判パネルを主対象としており、規模的に中小判のパネル加工は効率が落ちることから新機種の導入に至った。また、多様な特殊加工が可能のため、手加工部分の機械化をさらに進めて効率を向上させる。CAD面はアルティメットCADで統合管理するほか、欧州規格BTTL

新ラインが整備される太郎馬工場北棟

フォーマットとの連携などで関連加工ラインとの連携を図る。一方、今年秋には豊岡本社工場の横架材ラインの更新に着手する方針で、特殊加工対応機も増設し、生産能力を約3割引き上げる考えだ。